

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立調布南高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹養護教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主幹教諭(第1学年主任)、主幹教諭(第3学年主任)、主任教諭(総務担当)、主任教諭(第2学年主任) 計10名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者(河合塾調布現役館長)、PTA会長、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会副会長、杏林大学客員教授、地域関連機関関係者(調布市教育委員会、調布市子ども生活部、株式会社角川大映スタジオ管理部) 計9名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要（すべて書面開催）

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年6月22日（火）内部委員10名、協議委員9名
各分掌、学年及び経営企画室から昨年度の報告事項と今年度の取組目標、月ごとの年間計画について報告した。
各協議委員に向けたアンケートを実施し、本校に対する意見や助言を求めた。
 - 第2回 令和3年10月6日（水）内部委員10名、協議委員9名
今年度の各分掌・学年及び経営企画室からここまでの取組に関する進捗状況、学校評価アンケートに関する報告を行った。
各協議委員に向けたアンケートを実施し、本校に対する意見や助言を求めた。
 - 第3回 令和4年2月15日（火）内部委員10名、協議委員9名
今年度の各分掌・学年及び経営企画室の取組の結果報告、学校評価アンケートの結果及び分析、学校評価委員会のからの提言等について報告した。
各協議委員に向けたアンケートを実施し、本校に対する意見や助言を求めた。
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年10月7日（木）内部委員2名、協議委員1名 書面及び電話での協議
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた、内容・実施時期の検討
 - 第2回 令和4年3月14日（月）内部委員2名、協議委員1名
学校評価アンケートの結果と分析・考察についての資料を提示し、提言を作成した。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒	対象：707人	回収：425人	回収率：60.1%
・12月 保護者全員	対象：707人	回収：290人	回収率：41.0%
・12月 地域・住民	対象：20人	回収：13人	回収率：65.0%
・12月 教職員	対象：43人	回収：28人	回収率：65.1%
- (3) 主な評価項目
・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・ライフワークバランスなど
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・学校評価アンケートの回収率が昨年度に比して低下してしまった。地域・住民を除いてFormsを用いての集計であったが、十分に活用できなかったようだ。集計方法に改善が望まれる。
 - ・校訓の理解に関する意識は、生徒が約52%、保護者が約70%であり、生徒の意識が低い。校訓の理解が学校への帰属意識にも通じるので、向上させたい。
 - ・教育課程への満足度で生徒の約20%が否定的な意見を寄せている。原因を探り、より魅力的なカリキュラムになるようにしていくのが望ましい。
 - ・進路指導に関する満足度は、生徒・保護者ともに80%近い。進路実績も伸びており、大変よい。

- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・学校ホームページでの情報発信が今一つである。古いものが掲載されている。更新を心掛けていきたい。
 - ・生活指導については、自転車のマナー、歩行者としてのマナーで改善が見られている。特に京王多摩川駅からの登校に関しては、ルールを守っており感心できる。
 - ・生徒により積極性が出てくるとよい。特に授業で積極性が出てくるような仕掛けをしていく必要性を感じる。
 - ・保護者会のオンデマンド化を望む。コロナ禍で対面での開催が難しいので、強く要望する。
 - ・地域との生徒の交流を是非とも復活させてほしい。
 - ・生徒、保護者ともに生徒が高い規範意識をもって学校生活を送っていると考えている。
- 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）
 - (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
 - ・地域の方々が本校を応援してくれていることが明らかになった。特に硬式野球部への応援が多数寄せられている。コロナ禍の中、部活動のいっそうの活性化が求められる。
 - ・大学進学率の著しい伸びが見られたことに対し、現行の本校の教育活動を評価しているという意見が多かった。今後も組織的な学習指導、進路指導を展開していく。
 - ・PTAから施設の老朽化に関して援助を申し出てもらった。
 - (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
 - ・校訓に関する理解が進んでいないこと。全教職員で生徒及び保護者に意識づけ行っていくことが課題である。
 - ・ホームページについては、随時更新心掛け、いつも最新の情報がアップデートされるようにしていくこと。これについては、令和4年度に都の事業でリニューアルさせる予定である。
 - ・地元の自治会との交流の復活。コロナ禍が明けたときに生徒会を中心に地域清掃等を実施していく。
- 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）
 - (1) 学校運営
 - ・防災教育の充実 避難所設営訓練や地域と連携した防災訓練をとおして、生徒防災への意識をさらに高めさせる。
 - ・校訓の浸透 昇降口に掲示してあるが、それ以外の場所にも掲示をしていくことで生徒や保護者の目に触れさせ、意識を高めさせる。
 - (2) 学習指導
 - ・オンライン授業の充実 一人1台端末の時代になる。教員のスキルを向上させ、生徒が端末を自在に扱えるようにしていくことで主体的な学びを実現させる。
 - ・授業の改善 生徒が集中できる授業を教員が実施できるように、模範授業の参観や授業力向上研修等を実施する。
 - (3) 特別活動
 - ・学校行事や部活動において生徒が主体的に考え、行動できるように生活指導部を中心に組織的な指導を展開していく。
 - ・コロナ禍の中、活動時間を厳守するとともに活動時間を最大限活用した特別活動を実施する。
 - (4) 生活指導
 - ・生徒の規範意識をさらに向上させ、特別指導0件の学校を目指す。セーフティ教室を活用し、生徒の意識をより高いものにする。
 - (5) 進路指導
 - ・進路指導部を中心としたキャリア教育を推進し、生徒が、第一志望の学校に進学できるようにしていく。また、難関大学進学至上主義に生徒を陥らせないように、三者面談、外部の方を呼んでの研修会等を充実させる。
 - (6) 健康・安全
 - ・特別支援教育を充実させ、生徒が悩みを抱え込まずに済むような学校にしていく。特にSCの活用、養護教諭からの情報発信等を充実させる。
 - ・多摩川に近い本校の立地を考慮し、避難訓練では「水害」を想定した訓練を年1回以上実施する。
- 6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合
 - (1) 協議委員人数 9人
 - (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
6	3					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】特記事項なし

8 その他

- ・次年度は、学校評価アンケートの回収率を更に高めるため、ホームページ・保護者宛メール・プリント配布・Teams やClassi の活用等、あらゆる手段を講じていく。
- ・学校運営協議会の充実のために事前の資料配布を計画的に実施する。